

大呑ランタンフェスティバル～帰ってきたくなる場所、繋がる夜～

団体名●地域スポーツマネジメントゼミナール、スポーツ学科有志学生

代表者名●中林優芽(人間科学部スポーツ学科・4年)、西村貴之(人間科学部スポーツ学科・教授)

はじめに(背景・目的・目標)

スポーツ学科地域スポーツマネジメントゼミナール(西村ゼミ)所属学生および有志学生5名、卒業生11名の計16名は、七尾市大呑地域の南大呑コミュニティセンターで開催された「大呑ランタンフェスティバル」に参加した。本イベントは、地元住民や地域を離れた出身者、学生が交流し、能登半島地震からの復興を祈念するとともに、地域活性化に貢献することを目的としている。2025年度は、仕事や進学で地域を離れた人々が地元の良さを再確認でき、再び集える場の創出と復興支援を主な目的とし、金沢星稜大学の卒業生も交えた交流を通じて、地域のつながりの強化と大呑地域の魅力発信を目指した。

活動内容

(1)竹ランタン作り体験

日程：2025年8月16日(土) 15:00～18:00

場所：七尾市南大呑地域内

参加：参加者30名

内容：南大呑地域の東浜集会所および南大呑コミュニティセンターの2か所において、地域住民と学生が協力し、大呑地域で採れた竹を活用したオリジナルの竹ランタン製作を行った。製作を通じて参加者同士の交流が活発に行われ、住民と学生の交流にとどまらず、住民同士の会話も自然と生まれ、地域のつながりを深める貴重な機会となった。



竹ランタン作り体験の様子

(2)大呑ランタンフェスティバル

日程：2025年8月16日(土) 18:30～20:00

場所：南大呑コミュニティセンター

参加：来場者70名

内容：夜空に舞い上がるランタンと、地上に灯る竹ランタンのやさしい光が重なり合い、大呑の空と大地を幻想的に彩った。今年はランタンの色を一色に統一したことで、会場全体に統一感が生まれ、訪れた人々の心に残る美しい光景が広がった。



ランタンフェスティバルの様子

成果、結果の考察

能登半島地震の影響が残る中、例年とは異なる実施形態を模索しながら活動を行った。1年を通じた稲作活動支援などを通して地域住民との交流を深め、協力体制を築いた上でイベントを開催できた点は大きな成果だった。また、学生自らが告知用チラシを作成・配布し、地域住民の参加を促したことで、主体的に地域と関わる機会を創出することができた。

今後の課題、展望

本イベントは今年で4回目を迎え、昨年度よりランタン数を増やすなど規模を拡大して実施した。今後はさらに内容を充実させ、地域の恒例行事として定着させることが課題である。あわせて、地域外からの参加者を積極的に呼び込み、地域内外の交流を活性化させることで交流人口の拡大を図り、地域の魅力発信と持続可能な地域振興につなげていきたい。